統計学と国際社会Ⅰ　　何をどのように考えるのか　2005.4.11

＜ちょっと理屈っぽいですが・・・、１回目だけ＞

□ 古代ギリシア以来の「学問」の３分類

理論学* teoria（テオリア）　　事物の基本原理=哲学、自然学、数学(幾何学)

実践学 praxisi（プラクシス） 社会のあり方に関する学問=政治学、倫理学

制作学 poiesis（ポイエシス） 詩学、美学

＊ 形而上学(＝存在論、あるいは観念学)、あるいは「思弁」

□ 演繹的思考と帰納的思考

・演繹的思考 deductive reasoning：「一般から特殊へ」（古代以来）

プラトン　　「イデア」idea から万物が生じる

アリストテレス　　事物の基本的運動・展開＝原因論

思考の整序のために論理　=> 三段論法 etc.

・帰納的思考 inductive reasoning：「特殊から一般へ」（近代）

Ｆ．ベーコン　　「知識は力なり」*Knowledge* is power.

□ ２つの「精神」の類型(B.Pascal)

・「繊細の精神」 esprit de *finesse*　　：「文科系」の精神

・「幾何学の精神」esprit de *geometrie*　　：「理科系」の精神

□ 「思考」の基礎根拠

・ 先天説　De Cartes　(「理性」は生まれながらのもの<=「方法序説」)

ex.　Chomsky の「生成文法」　(cf. 9.11 以後を「批判」)

・ 後天説　　経験論（John Locke）　　cf. 合理論

□ 19 世紀の思想の３主潮（「市民」Bourgeois の発生と流転）

ヨーロッパの 19 世紀：フランス革命からはじまり帝国主義で終わる 1 世紀

・ マルクス主義 Marx, Engels：　「哲学者たちは・・・」

・ 実存主義　Kierkegaard： 圧政は去ったが、人はやはり不安・・・

・ 実証主義　Spencer：　社会を「科学」して社会を改良＝＞福沢諭吉 etc.

□ 実証主義 positivism, 実証的 positive の意味

・ 観念学(形而上学)に対し：(いくら弁じても)そもそもそれは真(事)実なのか？・・・

・ 思潮として　：　上述

・ データに基礎を置く　：　統計分析

＊「論理実証主義」とは分けて考える　=>　価値言明、証明可（不）能性

□ 量的思考の系譜 => 基本的には近代の思考(プラトン×、平家物語×、徒然草×)

・実験の精神 ： F.ベーコン、ホッブズ etc.

・数で表す「統計学」*statisitcs* ： ペティー、グラント、・・・(後述)

・家計から国家の経綸へ導く「政治経済学」political economy：A. スミス

=> 経済学(人の「損得」活動から国家の経済行為が説明できる)

□ 計量的思考と数理的思考

・数理的思考 mathematical reasoning

外的所与(data)がない => 演繹的 ex. ゲーム理論

・計量的思考 quantitative reasoning

外的所与(data)がある => 帰納的 ex. 統計分析

□ 数学の分野

幾何学 geometry 最も古い数学的思考の起源(「証明」を主とする)

代数学 algebra 方程式を解くルールの学問(中世から近代)。ex. 未知数は x

解析学 calculus 「関数」の計算をあつかう分野。もっともよく応用される。

授業の目的：万人向けにデータ実証型研究の実践能力をつける授業。

レポート作成演習を通じてグンとパワー・アップ。

くわしくはシラバスを読むこと(サイトは今週中に整備)。

■ レポート課題(次回正式出題)：準備のために・・・

1．すべての「アリ」を見たのでないのに、なぜアリは黒いといえるのか。

2．科学者と政治家はそもそも両立するか。

3．次の言明は正しいか、正しくないか？ それはどうしてか。

「○○(国家)は貧困の中にある。ゆえに ODA を必要としている。」

4．次の言説につきコメント(賛否・批判、その理由)しなさい。

・「人魚」も「河童」は実在せず存在しない。存在しないものについてのどんな言説もむなしい。

・「平和」は実在しない。ゆえに平和は存在しない。議論してもむなしい。

・白いもの(チョーク、雲、絵の具 etc)は存在するが、「白」そのものは存在せず、実際言い表すこともできない(少なくとも極めて困難)。

・そもそも人間一般(「人間」のあるべき定義条件)というものは存在せず、それぞれの人間が(人間の数だけ)いるだけである。

5. 生まれたばかりの赤ちゃんは生きた「経験」も「知識」もないのに、どうして生きていけるんでしょうか？いったい、「経験」や「知識」とは何ですか？

6. 「知識は力」でしょうか？